死海写本研究（四）

── 死海文書とマタイによる福音書18:15-17における『叱責』の比較研究 ──

大　串　元　亮

参考文献

F. G. Martínez, Brotherly Rebuke in Qumran and Mt 18,15-17; in:
The People of the DEAD SEA SCROLLS, 1993. ET 1995
J. H. Charlesworth ed., The Dead Sea Scrolls vol. 1 1994 vol. 2 1995

1）

マタイ18，15-17には，「兄弟の忠告」（新共同訳聖書小見出し）と呼ばれる箇所があり，同様の箇所がルカによる福音書17，3にもある。

これは新約聖書における「叱責」の例である。Ⅰ1テモテ4，2参照。

「忠告する」（ἐλέγχω הוכיח hi.　）（マタイ18，15）

「戒める」（ἐπιτιμάω הוכיח hi.　）（ルカ17，3）

「とがめる，戒める」（ἐλέγχω הוכיח hi.。ἐπιτιμάω גער kal.）

（11 テモテ4，2）

ヘブライ語はすべて旧約聖書においては教育用語としてよく知られた同義語である。拙著「旧約聖書におけるヤハヴェの叱責」の『概念』の章参照。

hi形の原意は「何が正しいかを確認する」で，それは教育では「戒める，叱責する」という意味で用いられる。

よく似た箇所が死海文書やダマスコ文書にもあることは早くから知られていた。最初は両者が直接の依存関係にあると見られたが，その後は，両者が同じ

旧約聖書の本文から平行して発展したが，互いに独立しているとする見方が多い。Sitz im Lebenは僅かに違いはあるが，ほぼ共通していると見られている。

最近死海文書研究の権威，Martínezは，この類例を詳細に研究し，発表した。本論はこのMartínezの研究を紹介し，また紹介するだけでなく，私見を加え，新説を提唱したい。

2）ダマスコ文書における叱責

エジプトはカイロのユダヤ教シナゴグから，死海文書発見に先立つ半世紀前，廃棄された写本群が発見された。（ゲニザ）。そのなかにダマスコ文書とよばれる巻物があった。10～12世紀のものと言われている。その背景はあるユダヤ教分派の共同体らしいと見られたので学者はそれを「或る知られざるユダヤ教分派」と呼んだ。ところが50年前死海文書が死海のほとりの洞窟で発見され，ことに第四洞窟から，ダマスコ文書の断片が発見されると，この方がオリジナルでカイロのダマスコ文書の方がコピーである事がわかった。（略号ＣＤ）ダマスコ文書のなかの「叱責」の一例を挙げてみよう。

CD IX 2-8

2 次のように言われている。あなたの民の人々に対して復讐してはならない。恨みを抱いてはならない。（レビ記19，18）

3 契約に入った者のすべて隣人を証人の前で「叱責する事なしに」（לא בְּהוֹכַח）告発する者，

4 彼が怒っている時に告発したり，長老たちに告げたために彼らが彼を軽蔑するようにしてしまった者，彼は「復讐し恨みを抱く者」である。

5 次のように書かれていないだろうか。ただ「彼（神）が敵に復讐し，敵に恨みを抱く」だけで足りる（ナホム１，2）。

6 もし彼が来る日も来る日もその者の事を誰にも言わず，或いはその人の重い罪を告発したりするならば，

7 その人の罪を自分が負うことになる。なぜなら彼は次のように命じる神の戒

めを充たさなかったからである。「隣人を厳しく

8 叱責しなさい（הוֹכֵחַ תּוֹכִיחַ）。そうしないと彼の罪を負うはめになる。」（レビ記19，17）。

הוֹכֵחַはクムランでは証人の前での叱責をあらわす専門語となった。後述参照。

3）「共同体の規則」における叱責

1QS V 24-VI 1

24＋25 その隣人を真実において，柔和と，その人への優しい愛において，叱責しなければならない（לְהוֹכִיחַ）。誰でもその兄弟に対して怒ったり，がみがみ小言を言いながら語りかけてはならない。

26 固いうなじと，烈しい憎しみをもって語りかけてはならない。その代わりにその日のうちに，VI 1 彼の過失の為に自分がその罪の責任をかぶる事がないように，

26彼を叱責（ תוֹכִיחֶנּוּ ）しなければならない。VI 1 そしてその隣人を「多くの人」（＝共同体の集会）の前で訴える事のないように，まず証人の前で叱責（בְּתוֹכַחַת）するべきである。

ここでは叱責が厳密な法的手続きのなかに位置づけられていて，共同体のなかで許すされる唯一の正当な叱責は，証人の前でなされる警告である。

4）マタイ18，15-17の兄弟への「叱責」

初代教会のなかで，ある時期ある場所で，叱責が法的に制度化した事をあらわしている。1QS や CD にみられるクムラン共同体における叱責との共通点，ルカによる福音書17，3 との関係を検討しなければならない。

マタイ18，15-17

15兄弟があなたに対して罪を犯したなら，行って二人だけのところで忠告

（ἐλέγχω）しなさい。言うことを聞き入れたら，兄弟を得たことになる。

16聞き入れなければ，ほかに一人が二人，一緒に連れて行きなさい。すべてのことが，二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。

17それでも聞き入れなければ，教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら，その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。

これと平行し，かつ時期的により古いイエスの語録に属すると思われるテキストは，ルカによる福音書17，3である。

ルカによる福音書17，3

あなたがたも気を付けなさい。もし兄弟が罪を犯したら，戒めなさい（ἐπιτιμάω）。そして，悔い改めれば，赦してやりなさい。

5）「叱責」概念と用語の伝承史

5－1　死海文書の場合

CD 9, 3「叱責する事なしに」（ לא בְּחוֹכַח ）

לא は否定詞。בְּ は前置詞，「において」，הוֹכַח は יכח hi.形　不定詞。合成形（KBL 380）。

7＋8　「厳しく叱責しなさい」（ הוֹכֵחַ תּוֹכִיחַ ）。これはレビ記19，17からの文字通りの引用である。

תּוֹכִיחַ は יכח hi.未完了形　二人称　単数。不定詞הוֹכֵחַが加わると強調の意味となる。

クムラン共同体のハラカーは証人の前での「叱責」を定式化していた。その場合旧約聖書のレビ記19，17-19の釈義がなされ，その一部が引用されていた。הוֹכֵחַ はクムラン共同体の証人の前での「叱責」を表す専門用語になっており，伝承史的には，旧約聖書の叱責概念と用語に遡ることは明らかである。

次の例を合わせて考えると，旧約聖書の場合は教育が父と子，または教

師と生徒の間でなされる道徳的・教育的叱責であったものが，クムラン共同体では教師と生徒または，上級指導者と会員の間の道徳的・教育的叱責に転義したと思われる。

1QS V24-VI 1

24＋25 「叱責しなければならない」（ לְהוֹכִיחַ ） לְ は前置詞。 הוֹכִיחַ は יכח hi. 不定詞の合成形

英語では rebuke (Martínez 1995), reproach (1994) とどちらも Watson 訳。admonish (Qimron, Charlesworth)

ドイツ語では Zurechtweisung (Lichtenberger)

26「彼を叱責しなければならない」（יוֹכִיחֶנּוּ）は יכח hi. 未完了形。三人称単数男性の語尾

VI 1「叱責しなければならない」 בְּתוֹכַחַת בְּ は前置詞「において」。

תּוֹכַחַת は יכח hi. から派生した名詞。accuse, Zurechtweisungと訳されている。

この名詞形は，旧約聖書においては「懲らしめ」と訳される מוּסָר や，גְּעָרָה 等とともに知恵文学的教育用語として，詩編や箴言等で用いられている。

5－2　新約聖書の場合

マタイ18，15の（忠告しなさい」（ἐλέγχω）はギリシア語訳旧約聖書 LXX がヘブライ語 יכח hi の訳語として用いたものであることは既に触れた。

ルカ17，3の「戒めなさい」（ἐπιτιμάω）も，יכח hi. やגער kal 訳語である。現代ヘブライ語聖書参照。

新約聖書も創世記の「叱責」概念や用語を検討する時，イエスの語法（ここでは論じられない）愛と権威と正義の基準という前提，動機，機能の各点で，旧約聖書の伝承史的発展の線上にある。

6　結　論

6－1　クムラン共同体のハラカーにおける「叱責」と新約聖書のそれとを比較する時その類似は誰の目にも明かである。クムラン共同体の方が歴史的には先であるが，新約聖書の教会も信仰共同体を形成するにつれ，セクトとしての規律を維持し，会員を道徳的に訓練し，教育し，牧会しなければならない必要が生じていた。Sitz im Leben の共通性がここにある。

6－2　共に旧約聖書とその「叱責」概念という共通の伝承史をもっていた事は，その用語を点検すれば明らかとなる。拙論「旧約聖書におけるヤハヴェの叱責」参照。

6－3　クムラン共同体の場合，その「叱責」ハラカーが法的性格を強く持っている事は明らかである。マタイの場合もそれは言える。特に18，16．17の決疑論的語法はユニークである。愚かな息子への個人的家庭的叱責が限界に達したならば，両親は法廷に訴えるべき事が申命記21，18－21に記されている。Martínez は旧約聖書の「叱責」伝承と申命記21，18－21という法的背景を見落とした。

6－4　クムラン共同体とマタイとの相違点。クムランのハラカーには，個人が個人を叱責する規定がない。それはむしろ怒りがともない，復讐や怨恨が伴う危険があるとして避けている。重要なのは第二段階であるはずの，証人の前での叱責である。その動機は，隣人の過失を知りながらも放置すれば，そのく責任と咎は自分に降り掛かるから，それを避けるためである。

6－5　それに反して，マタイの場合は，兄弟への叱責の動機はそれにより，迷い出て，罪を犯した「兄弟を得るため」である。クムランにはない，この牧会的動機の背景はとして，当然考えられるのが，ルカ17，3である。Martínez はマタイ18はルカ17，3の発展ではなく，マタイが自分のハラカーにイエスの福音的な語録を引用し，付加したのである，と彼は説明する。マタイはこのハラカーの直前に「迷い出た羊」のたとえを配

列している点をもっと注目すべきであると，論者は考える。ここにクムラン共同体の「叱責」とマタイのそれとの決定的な相違がある。マタイの単元の「目標」（Ziel）は15節であり，16，17はそれに続くやむを得ない措置にすぎない。彼の心を占めているのは，「一匹の迷い出た羊」を探すイエスの愛である。そこから論者の推測は更に発展する。この編集者であり，且つマタイ共同体の指導者また教師であるマタイは誰なのか。マタイはもともとクムラン共同体の一員であった。しかし，70年のクムラン崩壊後，生き残り，福音にふれ，回心した。もとファリサイ派パウロのように！　彼は義の教師でなくナザレのイエスの弟子となり，指導者になったと推測する，この推論が正しければ，マタイによる福音書の理解に新平面が開けてくる。最近ヨハネによる福音書と死海文書との共通性を説明するため，ヨハネによる福音書の編集者はもとクムランからの回心者であるという新説があることに触れて本稿を終える。

	クムラン共同体	マタイ18,15-17	ルカ17，3
個人と個人	無し	有り	有り
分派的共同体	クムラン共同体	マタイ共同体	（初期のイエス語録）
叱責の動機	秩序維持と自分が罪を被らない為	兄弟を得るため	兄弟の悔い改め
旧約聖書の叱責伝承史と概念用語特に申命記21，18-21との関係	有り	有り	有り

クムラン共同体とマタイ共同体とは，Sitz im Lebenに共通性がある。違いは共同体の秩序維持が目的でなく，兄弟の悔い改め。これが本質的差異。